

医学看護研究の統計相談からみた研究デザイン教育の現状

愛知医科大学付属病院 臨床研究支援センター

大橋 渉 三嶋秀行

480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1-1

wohashi@aichi-med-u.ac.jp

(背景) 近年、医学看護教育における統計教育の重要性は増している。科学研究における P 値は有用な統計指標だが、誤用と誤解が広がっていることに対して、アメリカ統計学会は 2016 年に専門用語を使わずに「統計的有意性と P 値に関する ASA 声明」を公表した。

(目的) 医学看護研究における研究デザイン教育の現状と問題点について検討する

(方法) 愛知医科大学で 2018 年 4 月、5 月に行った医学看護研究の統計相談 23 件を対象とし、研究デザインの教育受講歴について調査を行った。また、Amazon Japan において、2018 年 5 月 27 日現在で掲載されている医療統計学入門書 154 冊について目次検索を行い、研究「デザイン」に関する項目の有無について検討した。

(結果) 医学看護研究の統計相談において、不適切な研究デザインで集めたデータの統計相談が 19 件 (82.6%) であった。研究デザインの教育受講歴は 0% であった。市販の医療統計学入門書の内容は「統計的検定」の記載が中心であり、研究デザインの記載は、全体では 154 書籍中 36 書籍 (23.1%) であった。年代別には、2000 年以前の出版では 2 件 (8.0%)、2000 年～2009 年では 8 件 (15.7%)、以後 2010 年～2014 年では 12 件 (30.0%)、2015 年以降では 14 件 (36.8%) であった。

(考察) 医学看護研究において「研究デザイン」に関する教育機会が不足していることが示唆された。書籍においては、2010 年以降の医療統計学入門書への「研究デザイン」項目の記載は増えているので、生物統計家にとっても統計解析だけでなく、研究デザイン教育の重要性を認識して活動していることが示唆された (Cochrane-Armitage test $p=0.0010$)。